

経営比較分析表（平成30年度決算）

福井県 池田町

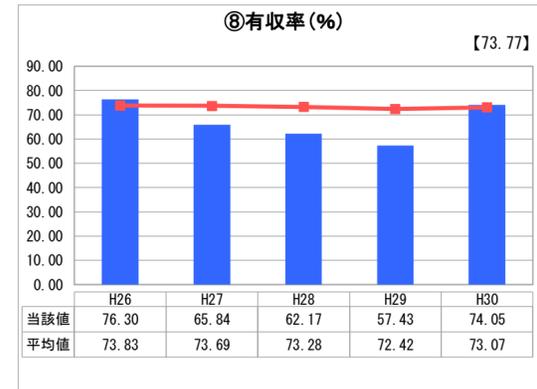
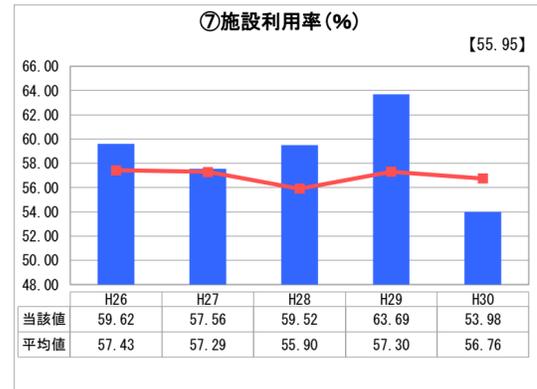
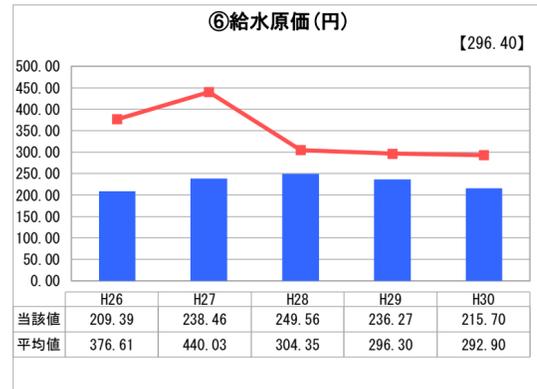
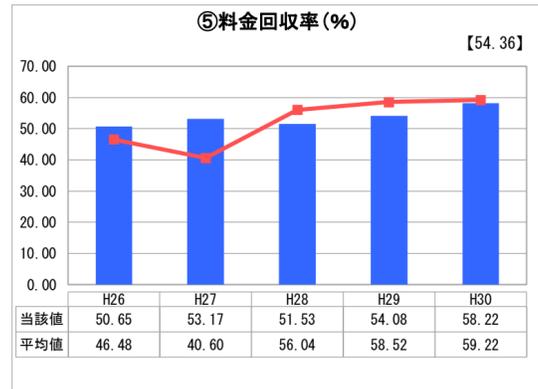
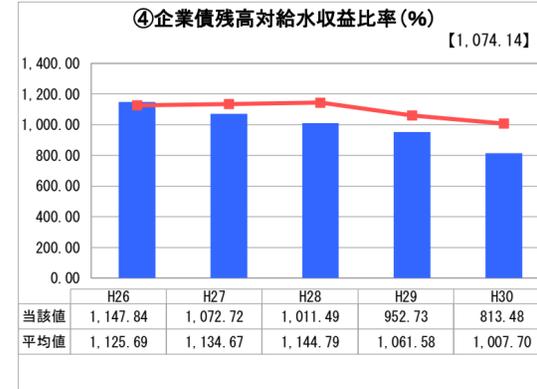
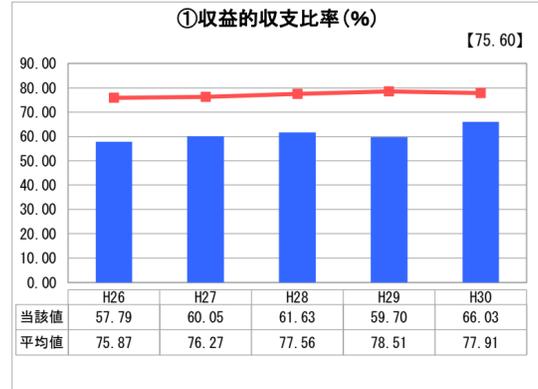
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	93.07	1,998	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
2,592	194.65	13.32
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,390	31.24	76.50

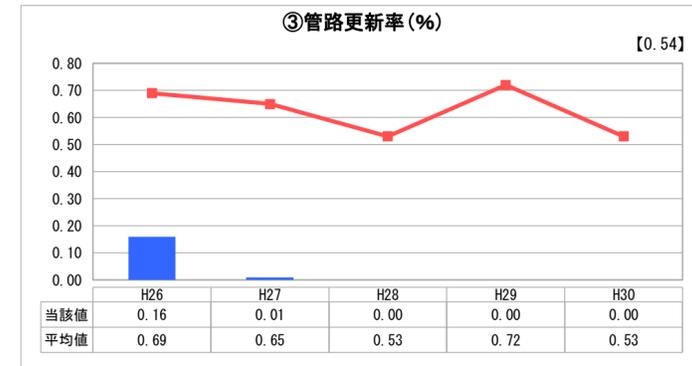
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①「収益的収支比率」を見ると単年度の収支は赤字であり、前年との比較では7%ほど上昇しており5年間で約9%ほど数字の上昇が見られる。平成19年度の下池田地区(白粟)水道施設の整備後、大規模な施設改良を行っていないため、地方債償還金が減少した。④企業債残高対給水収益比率の数値の降下についても同様である。⑤「料金回収率」は約58%であり、地方債償還を一般会計繰入金で賄っている状況である。⑥給水原価については類似団体に比べ低い数値となっているが、使用者減少による有収水量の減少、老朽管更新の費用増加も今後見込まれるので経費削減を進めるために効率の良い整備を計画している。⑦施設利用率の数値の下降、⑧有収率の上昇については漏水修繕による配水量の減少が影響していると考えられる。

2. 老朽化の状況について

池田町水道事業の整備は、昭和56年度から平成元年度にかけての第1期、平成8年度から平成19年度までの第2期に大きく分けられる。管路については塩化ビニル管を採用しているため耐震化率0%となっている。このため、簡易水道施設整備費国庫補助(生活基盤近代化事業)を活用し、令和1年度より老朽管を耐震性のある管種で更新することで耐震性を向上を図る。

全体総括

有収率の上昇については漏水修繕による配水量の減少が影響していると考えられる。管路については塩化ビニル管を採用しているため耐震化率0%となっている。このため、簡易水道施設整備費国庫補助(生活基盤近代化事業)を活用し、令和1年度より老朽管を耐震性のある管種で更新することで耐震性を向上を図る。